



家畜保健衛生所だより

R6.11.8

福岡県で国内初のランピースキン病が発生！

11月6日、福岡県の乳用牛飼養農場で国内初のランピースキン病の発生が確認されました。

ランピースキン病はランピースキン病ウイルスにより皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の低下等、多様な症状を示す牛や水牛の病気であり、人には感染しません。死亡率は高いですが(1～5%)、生産性の低下による経済的被害の大きい伝染病であり、届出伝染病に指定されています。

本病ウイルスは、皮膚病変、唾液、鼻汁、乳汁、精液等から検出されています。感染牛の移動や、蚊、サシバエ、ヌカカ、マダニ等の吸血昆虫による機械的伝播、汚染された飼料、水、器具を介しての感染、さらに子宮内の胎児へも感染します。

⑥⑥ ランピースキン病発生に伴う防疫対策の徹底について ⑥⑥

- ①飼養牛に疑わしい症状が発見された場合には、獣医師又は家畜保健衛生所に速やかに通報してください。
- ②本病は、吸血昆虫による機械的伝播により感染が成立すると考えられていることから、平時から吸血昆虫対策(虫の発生場所を減らす、トラップ、殺虫等)を行いましょう。
- ③本病ウイルスが付着した器具の持ち込みが感染の原因となるおそれがあることから、他の畜産関係施設で使用した器具は原則持ち込まない、やむを得ず持ち込む場合には、十分に洗浄と消毒をしてください。
- ④血液を介して本病が感染する可能性があることから、注射針、人工授精用器具、その他体液が付着する物品を使用する際には、1頭ごとに確実に交換または消毒を実施してください。

中予家畜保健衛生所 TEL 089-990-1333
携帯 090-6282-6129 (夜間・休日)